

グループ学習の現状とファシリテーターの役割

白井 靖敏・鷺尾 敦*・下村 勉**

Role of Facilitators in Group Learning in Higher Education

Yasutoshi SHIRAI, Atsushi WASHIO, Tsutomu SHIMOMURA

1. 目的

大学へ入学する学生が多様化している現状のなか、2008年12月に出された中央教育審議会の「学士課程教育の構築に向けて」(答申)¹⁾以降、多くの大学で、学生の主体的・能動的な学びを引き出す授業、たとえば、学生参加型授業、協調・協同学習、課題解決・探究学習などが取り入れられている²⁻⁷⁾。いま、筆者らは、これらの学習方法の基本となるグループ学習に注目し、実際に、学習が深まっているか、広がりがあるのかについて、講義形式、いわゆる一斉授業型の授業との違いや効果を検討している⁸⁻¹¹⁾。

グループ学習そのものは、初等中等教育のなかで、特に「総合的な学習の時間」が導入されて以来、盛んに行われているものの、期待されているほど、学習効果が高まっているとは言えないことが、学生へのアンケート調査などから見えてきている¹²⁻¹⁷⁾。グループ学習には、様々なタイプがあるが、筆者らは特に、学習者の役割分担の面で、リーダー的な役割、ファシリテーター的な役割が重要であると考えている。ファシリテーターは、企業研修などにおいて、問題解決や組織力の強化の観点で注目を集めていることから、その重要性にも着目されている¹⁸⁻¹⁹⁾。

また、グループ学習など、アクティブラーニングを取り入れた授業では、特に内発的動機付けを喚起しやすく、学力の剥落が起きにくいと言われているが、伝達する知識や情報量に限りがあり、場合によっては、低いレベルの学習者に合わせてしまう危険性もあるといわれている¹⁶⁻¹⁸⁾ ことから、ファシリテーターを明確に位置づけることにより、グループ学習におけるこうした弱点を克服できるのではないかと考えている。

本報告では、その研究の手始めとして、実際に学生が経験してきたグループ学習の現状を分析するとともに、実際に、どの程度、学生にとってファシリテーターの役割が認識できるかについて、授業実践の結果からまとめる。

2. 方法

2-1 グループ学習の現状調査

* 高田短期大学オフィス人材育成学科 ** 三重大学教育学部

前項で述べたように、自ら学び考える力を育成する授業作りには、学生参加型のいわゆるアクティブラーニングが欠かせないことから、その現状をみるため、大学におけるグループ学習の状況調査を実施した。対象は、本学において、比較的グループ学習が多く取り入れられている文学部児童教育学科4年生、「教育の方法と技術」選択学生2クラス計83名、調査項目は、グループ学習の経験、身についたこと、学習上の課題などである。実施時期は、平成22年7月～8月の集中講義期間中とした。

2-2 授業実践における検討

2-2-1 グループ編成

家政学部の教職課程のなかの科目「総合演習」15回のうち、前半の7回の授業では、興味関心のある課題別に学生の希望を優先してグループを編成した。グループ内での役割や、その仕事内容は事前に説明しておいたが、ここでは、グループ内の役割をあえて決めず、学習を行っていくなかで、学生個人が自分の適性（リーダー、ファシリテーターなど）を見極められるよう配慮した。後半8回のグループ学習は、テーマをグループごとには変えず共通設定し、前半のグループ学習から認識した自分の特性を活かした形で、リーダー、ファシリテーター、プレゼンター、会議記録、資料整理の5つの役割から選択させた。

表1 本実践でのグループ学習における役割の概要

リーダー	: 会議の内容に責任を持つ。(課題の設定責任、課題意図の説明、課題解決のための判断など)
ファシリテーター	: 会議の内容には責任を持たず、進め方に責任を持つ。 (課題設定の趣旨に沿い、多様な意見を引き出し、話しやすい雰囲気を作り、分散から収束に向けた議論の進行)
会議記録	: ディスカッションに参加するので、その場では記録せず、ICレコーダから記録を整理してグループ員に配布する。
資料整理	: リーダー、ファシリテーターと打合せをして、会議資料収集と整理、可視化する。
プレゼンター	: リーダーと打合せをして、発表資料を作成し、発表する。

2-2-2 授業計画

① 前半7回

- 1回 話題提供「食問題」(JA職員による講演)
- 2回 「食問題」のなかから小テーマ設定(学習者からの小テーマを集約)
グループ分け(集約された小テーマごとに希望順)
- 3回、4回 グループ討議(ブレインストーミング)
- 5回 プレゼン資料作成
- 6回 プレゼンテーション
- 7回 個人レポート作成(ポートフォリオ形式)

② 後半8回

- 1回 役割分担アンケート: リーダー、ファシリテーター、資料整理・記録、プレゼンターなどの希望調査、課題「学校給食」
- 2回 グループ分け 役割の調整、作業の分担
- 3回 資料収集(個人)
- 4回、5回 グループ討議(KJ法、記録はICレコーダ使用)

- 6回 発表資料作成
- 7回 プレゼンテーション
- 8回 学習分析とレポート作成（ポートフォリオ形式）

3. 結果

3-1 調査結果

3-1-1 グループ学習の経験について

大学の3年半の期間でグループ学習を学生らが経験したのは、1年次20科目、2年次29科目、3年次24科目、4年次7科目の計80科目と多くあった。特に多くの学生が印象に残っていると答えた授業は、討論や表現活動、創作活動などがある学習であった。回答数の多かった上位5の授業の概要を表2に示す。なお、グループ学習の型（分類）は大山⁶⁾らに従った。これら印象に残っている授業のグループ学習の型（分類）は、課題解決型か集約型であり、グループによる成果発表がある学習であった。

・科目A

現在の子どもの問題、教育保育に関することをテーマにした発表と討論。（不登校、いじめ、教育思想、幼保一元化、子どもの遊び、など）

・科目B

教育・保育に関わる諸課題についてグループによる調査・考察・発表・討議・解説（教職に就く者としてのあり方、保護者にどう対応すべきか、学力低下とゆとり教育、など）

・科目C

グループ活動（表現活動・チームゲーム）を通して大学時代における人間関係構築に務める。

・科目D

創作童話の発表（紙芝居、人形劇等）

・科目E

今まで学習した内容知識を保育の現場で応用できる能力を高めるためテーマごとにグループに分け、情報収集、配布資料作成、発表を行う。

3-1-2 ファシリテーターの理解

リーダーとファシリテーターの役割について尋ねたところ、リーダーについては72件もの回答があったが、ファシリテーターについては、4件の回答しかなく、リーダーについての理解はあるが、ファシリテーターの役割に

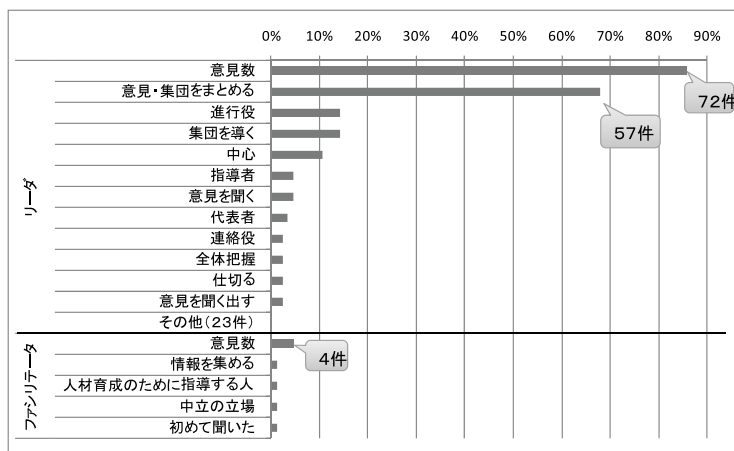


図1 リーダー、ファシリテーターの理解について

表2 印象に残ったグループ学習の概要 (上位5科目)

	科目A(56)	科目B(41)	科目C(41)	科目D(18)	科目E(13)
学年	3年	1年	3年	2年	3年
テーマ	3年 保育に関わる社会問題 赤ちゃんボスト、代理母、優先席、女性専用車両等	教育、保育に関わる諸問題	創作ダンス、人間関係の構築	創作劇、創作童話、絵本制作、人形劇、物語作り	障子の巻、赤ちゃんピピからまの、障がい児保育、小児感染症、離乳食、子どもの気になるくせ、赤ちゃんはどこから来るか、子どもの予防接種等
人数	4人~8人、4人が一番多い	4、6人	10~11人	5~8人	4~6
学習型	C課題解決型、D主張交流型、F集約型 の意見多し、他E理解促進型	C課題解決型、F集約型に意見が分かれる。他に、D主張交流型	F集約型の意見、一部の課題解決型の意見あり	F集約型の意見、一部の課題解決型の意見あり	F集約型の意見、一部の課題解決型、D主張交流型E理解促進型意見あり
ねらい	証拠に基づいた討論力、意見をまとめ、話せる力、課題解決力、意見を論理的に話す力、筋道を立てて論じる、探究心、協力	課題解決力を身に着ける、教育、保育の認識、プレゼン能力、教職に就く者としての基礎、グループ学習の方法理解、調べ方情報の信用性	意見をまとめる、強弱性、団結力、チームワーク、グループ内の役割を自覚、責任感、グループ力を高める。大学時代の人間関係構築、作品として表出、リズム感、習と作り表出する楽しさ	演劇について、協働制作、大切子どもを築きませる表現力、言葉の大切さ、保育者としての言語活動における豊かな表現力、物語	協働制作、大切子どもを築きませる表現力、言葉の大切さ、保育者としての言語活動における豊かな表現力、物語
作り方	出席順、教員指定	学籍番号順、教員指定	くじ引き	出席番号、先生指定	学生で自由。興味あるテーマで
事前作業	資料集め、事前調査。調べ学習、資料調査	事前ネット文献調査、資料収集、インタビュー、レジュメ、プレゼン資料作成	曲選び、DVDでダンスの基礎、ダンス(振付、ボジョヨ、曲)案、過去の作品閲覧、構成、衣裳、練習	衣装作り、大道具作り、グループで話し合い、創作童話作り、個人で童話作り、制作、練習、各自の人形作り	資料を持ち寄り、グループで調べ事前資料作成、役割分担して個人でレジュメ作成
成果発表	レジュメ作成、ロールプレイ、発表、ディベート、グループ対抗ディベート、プレゼン	グループでプレゼン、レジュメ作り	グループダンス発表	人形劇の発表、舞台での発表	グループでプレゼン発表
意見交換	後、活発な話し合い	活発に話し合った、互いが資料を集め話し合う	練習後・体日・お泊り・練習、高身姿出し合いながら振付決め、皆が納得するものに、活発であった	活発な話し合い、事前作業・授業内・放課後、定期的に話し合い	話し合い、強引して
役割分担	第1、2反駁、第1、2立論、タイムキーパー、リーダー、記録、まとめ役、発表者の補助、発表者	インタビュー、資料レジュメ作成、劇、リーダー、調査範囲、資料集め、発表、リーダー、ファシリテーター	構成、小道具作り、副読入、曲ごとの振付、全員で協力、フォーメーション、曲作り、リーダー、音源、衣裳	演じる役、衣裳、大道具、小道具、セリ作り、照明、音響、台本、ペーパーサポート作り、リーダー、裏方	リーダー、とくになし
活動	個人で調べた結果を持ち寄りグループで議論し、その結果をまとめて発表した	インターネットで調査、インタビューをし、グループで討議、資料をまとめ、プレゼン	意見を持ち寄って話し合い、話し合いながらのダンス作り、音楽遊び、ダンス作り、インターネット活用、グループ練習、練習での作品作り上げ	意見を出し合い、表現方法、ストーリー作り、準備、練習をし、劇にする	個人で調べた結果をグループで議論し、結果をまとめて発表
ツール	本、パソコン、インターネット、	パソコン、インターネット、文庫、本、ビデオ撮影	CD、DVD、インターネット、パソコン、アポドテック、音楽プレイヤー	パソコン、教室、舞台、フェルト、画材、資料、文庫、絵本、ペーパーカッター、アドバイス、評価、材料の手配、物語コマンド、聞き役	パソコン、インターネット、本、文庫
教員	事前講義、評価、コメント、活動中のアドバイス、発表後の感想、聞き役	活動中のアドバイス、事前講義、発表方法の説明、事後評価、講評	アドバイス、事前講義、評価、戻守り、ビデオ撮影	アドバイス、評価、材料の手配、物語コマンド、聞き役	活動中のアドバイス、事前講義、評価
自己評価	満足(短時間で準備らしい発表、相手の発言を考えて行動した姿、今までが一番充実していた、皆で協力して楽しかった)、不満(笑いが直前まであり準備ができなかった)	満足(グループのまとまり、下調べの必要性、力がついたら、はじめてのグループ発表に達成感、初めてのビデオ活用)、不満(発表時のトラブル)など	満足(積極的な活動、楽しかった、チームワークができた、なかなかダンスができなく苦労した)、やや不満(準備時間がなかった)	満足(助け合いができた、いそがしかったけれど楽しくできた、あがり症を克服、頑張った、満足できる作品)、やや不満(グループ内で興味の差があった)	満足(意欲的にできた、積極的にてきた)、必要な知識が得られた

についてはイメージすらもっていないようであった。

3-1-3 身についたこと

グループ学習で身についたと感じたことについて79名の回答があった。学生が自由記述した回答から同じ趣旨の意見をカウントすると図2で示す結果になった。学生がグループ学習で身につけたと感じていることは、①視野の広がり・意見を言えるようになる・協調性などグループコミュニケーション能力、②グループ学習の過程で実践した調査・資料作り・発表方法などの学習手法であった。授業方法の違いから、それぞれ得られたものはあるようであるが、授業の内容に関して、理解が深まったという回答は少ない。

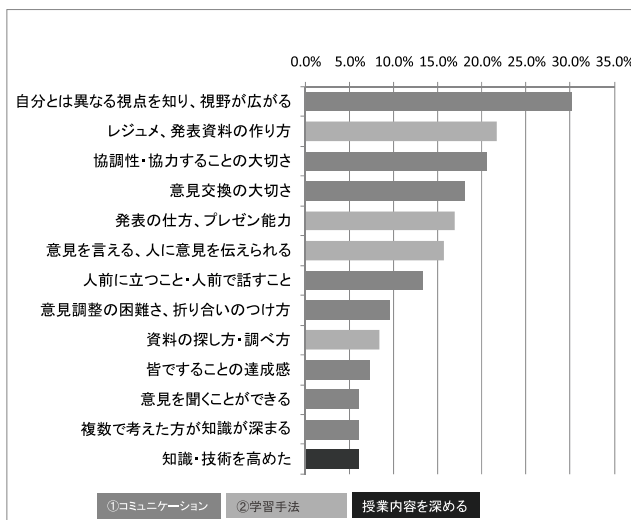


図2 グループ学習で身に付いたこと

3-1-4 グループ学習への疑問

身についたという意見に比べれば少ないが、グループ学習の課題に繋がる意見が34件あった。指摘された課題は、授業実施方法に関すること、グループづくりに関すること、評価方法に関

表3 グループ学習への疑問

・授業実施方法に関して(14件)

- ただ調べてまとめて発表して終わり、反省会がない、深めていない
- インターネットからの引用が多くなる
- 毎年似たテーマ、同じ本をまとめ、他班との違いがなく意味があるか
- やたらグループ活動が多い
- 個人発表が少ない

・グループのあり方に関して(9件)

- 役割がいつも同じになる(リーダーは性格的なもの)
- 自己主張の強い学生の方向へグループがいく
- メンバーの温度差がある、意識の低い学生が参加しない

・評価方法に関して(6件)

- 皆同じ評価となる。頑張った人が報われない
- 発表に対する先生の評価がないものもある

・教員の指導に関して(6件)

- 先生の授業がなくグループワークばかり。その先生でなくともよい授業である
- 自分の手間を省いていると感じる、熱意を感じない
- 先生によっては科目名が変わってもグループテーマが似ている

すること、教員の指導力に関することの4つに分類できた。

3-1-5 その他グループ学習の感想

身についたこと、疑問に思うことの後に、その他グループ学習についての感想を尋ねたところ、46人から回答を得た(表4)。

表4 グループ学習の感想

-
-
- ・自分では思い浮かばない考えや意見を入手できる
 - ・グループ学習を通しての人間関係作りはとても役に立った
 - ・その課題についての知識が深まり自分のためになる
 - ・やり遂げた時の達成感は素晴らしい
 - ・協調性など必要な力を身に着けることができた
 - ・グループ活動は自分の成長に大きな影響を与えてくれた
 - ・仲間の意見と自分の意見をうまくまとめていく力を養うことができた
 - ・個人で発表するより、より濃い内容の発表ができた
 - ・たくさんやってきたけど、今振り返って思い出すのは数個だなあと感じた
 - ・自分たちで調べて授業で発表するばかりで先生の授業をあまり聞いたような記憶がない
 - ・もっと違う人たちとプレゼンできるよう、グループ作りをもう少し考えたほうがよかった
 - ・全然意見を出さない人もいるのに評価が同じなのは少し嫌だった
 - ・先生のアプローチによっては、議論や内容が深まらないものもあった。
-
-

3-2 授業実践

3-2-1 役割

後半のグループ学習において、役割の希望調査の結果、前半のグループ学習である程度の認識はできているものの、リーダー希望が1名、ファシリテーターが2名、プレゼンターが3名、資料整理・記録が30名となった。学生の役割についての希望のみではグループが編成できないため、第2希望を含め、話し合いによる調整を行い、8グループを決定した。ファシリテーターについては、高等学校まで、ほとんど経験もないこともあり、本授業での説明と事前学習だけでは、なかなか理解が得られず、自信もなかったかと思われる。しかし、リーダーについては、過去の、つまり、高校までに経験している学生も多いため、全体の2割くらいはあると予想したが、結果は非常に少なかった。学習後に提出させた個々の学習記録(ポートフォリオ)から見ると、経験していても、リーダーの負担が大きいこと、自分では能力がないことがわかっているなどの記述があり、積極的には手を挙げなかったと思われる。話し合いによる調整では、リーダーとしての役割を申し出た学生は比較的多く、グループ学習におけるリーダーの重要性は認識できていた。

3-2-2 会議記録

グループ内会議の記録は、記録係が行うが、発言しにくいいため、当初は、補助としてグループごとにビデオ撮影を考えた。しかし、近接した位置にセッティングでき、広角撮影できるカメラは多くなく、音がうまく拾えないため、ICレコーダーを利用した。録音データから、個々の発言回数、内容などが解析できるようにした。ICレコーダーは顔が分からないなどの難点があると思われたが、声によって誰が発言したかが意外によく分かるものであり、安価で利用価値が高いと判断できる。

3-2-3 役割の遂行状況

8グループについて、特にリーダー、ファシリテーターの役割を担った学生の、それぞれの役割の認識と遂行状況を尋ねた結果を図3に示す。リーダーは、高等学校までの経験もあり、よく認識できていたが、実際には、思ったほど、その役割を果たせなかったとしている。ファシリテーターについては、話し合いを円滑に進めるなどの役割は、おおむね認識していたようであったが、実際の遂行状況からみると、十分ではなかったことが分かる。

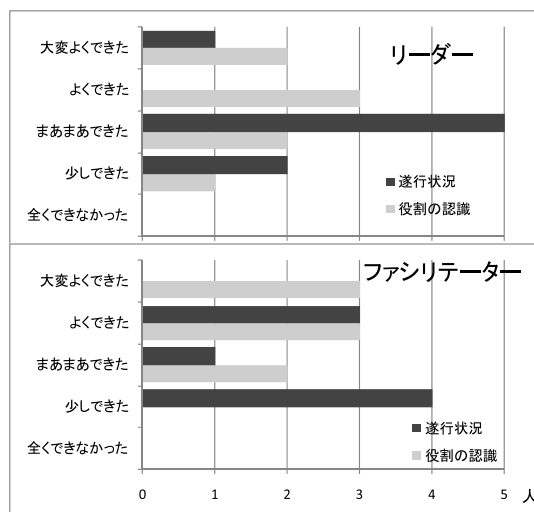


図3 リーダーとファシリテーターの役割の認識と実際の遂行状況（8グループ、それぞれ8人）

3-2-4 学生の意見

リーダー、ファシリテーターの役割を担った学生の意見からみると、それぞれの役割の仕事内容は事前に説明されていたが十分理解できているとはいえ、特にファシリテーターはこれまで未経験であったことの影響も大きく、ファシリテーターの仕事とリーダーの仕事との混同が見られ、実際にはファシリテーターとしての仕事の遂行状況も十分とはいえなかった。

表5 リーダー・ファシリテーターの役割についての学生意見

<リーダーの役割>

- ・みんなの意見をどのように引き出すか、話し合いが成立するよう気をくばった。
- ・チームを引っ張り、みんなの意見を良く聞き、行き詰まったら助け船を出し、まとめた。
- ・知らない人とのグループだったら、どう進めたらよいか不安、リーダーとしての意見を明確にした。
- ・グループをまとめ、それぞれの役割のサポートをする。発表に向けて、計画を立て、うまく流れができるように考えた。

<ファシリテーターの役割>

- ・議論に対して中立な立場を保ちながら話し合いに介入し、合意形成や相互理解に向けて深い議論がなされるよう調整した
- ・話し合いが進まなかったとき、集めた資料を分類して整理し、発表資料としてまとめられるように心がけた
- ・話し合いを進めるうえで、意見を集約したり、同意したり、質問したりと積極的に行えた
- ・リーダーがうまく仕切ってくれたので、沈黙などは無かった自分では思い浮かばない考えや意見を入手できる

4. 考察

グループ学習の現状についての調査から、実際にグループ学習が多く授業のなかで取り入れられているが、大きく4つの課題があった。①教員の指導のあり方について、学習内容の指導や、グループ学習そのものの実践の評価が十分に行われていないことや、同じ教員の別授業が同じ内容であったり、教員の熱意が感じられないケースも見られた。②グループ学習の進め方について、調べ・まとめ・発表という流れがパターン化している傾向がある。③グループ編

成について、毎回、同じ学生が同じ役割につき、特定の学生に引きずられる傾向があることや、参加メンバーの学習意欲の温度差が大きい、④評価について、グループ内の個々の活動差が十分反映されているとはいえない。

グループによる成果発表があることで学生の印象に残るものの、自分とは異なる視点を知り、視野が広がるが、複数で考えることによる知識の深まりや、知識・技術の高まりまでにはなかなか至っていない(図2)。実際のところ、これまでの学習、特にグループ学習で、ほんとうに学習が深まったか、あるいは広がったかについては、また、学習者相互の討論が十分満足いくものであったか、などの成果が見えにくいこともわかった。

一般的に、教員が多数数の学生を対象に一斉講義を行った方が、知識の伝達面では効率的で、なおかつ、学習内容もきちんと整理されていて、わかりやすい反面、学生自身で考え、相互に学習を深めていくスタイルでは、学習者の質的な要素も大きく反映するが、なかなか、学習が深まりにくい。「先生は何もしてくれない」、「ただ、話し合っただけ」などの意見もみられるので、講義としての一斉授業に比較してのグループ学習の弱点は克服できているとは言えない。授業の進め方、教員のあり方、個人評価、グループ作りには改善の余地があるだろう。たとえば、大山ら⁶⁾の分類でみたとき、事前学習、プレゼンを含む事後学習の場面における教員の果たす役割は重要で、この場面で手を抜くと、たとえ、リーダーやファシリテーターなどの役割分担が明確であっても、グループ討議そのものが充実した学習には至らないため、しっかりした指導計画を立てる必要があると考える。

授業実践では、8グループのなかで、特にリーダーとファシリテーターの役割を担った学生の自己評価(図3)において、グループ学習での役割(リーダーやファシリテーターなど)の重要性や仕事内容は認識できていても、ファシリテーターが存在するグループ学習を過去に経験したことがないため、リーダーがファシリテーターの仕事も担い負担が増し、また、ファシリテーターはといえば、そのやり方が分からず、ほとんど機能していなかったと考えられる。これらの原因として、グループで話し合う場合、リーダーとファシリテーターの役割は認識しつつも、どちらが司会をするかなど、場を仕切る役割が明確でなかった点が、いまひとつ実感していなかったことが影響していると思われる。そもそも、当初、リーダー希望がきわめて少なかったことは、高等学校までの経験のなかで、リーダーがファシリテーションまでも担っていたことから過度な負担を感じていたからだとも推測できる。

グループ学習の効果のひとつである協調性やコミュニケーションの力は付いたものの、結果として、学習内容が思ったほど深まらない、多様な学びへと発展しなかったことの課題は、依然として残った。

また、企業などで、ファシリテーションの有効性が重視されている背景には、かつての日本企業では、ひとりの優秀なリーダーがいて、その人の考えのもと、いわゆるワンマンで経営して成功してきた部分があったが、社会が多様化し、国際化が進むと、ワンマンでは対応しきれなくなってきたことから、ファシリテーションの考え方を取り入れた戦略へ方向転換がはかられてきたのではないかと思う。

多様な意見を多く引き出し、そして、収束させていく技術は、学習場面、特に、問題解決などの面で有効と考えている。単に、リーダーがまとめるのではなく、ファシリテーションを担当する別の役割、つまりファシリテーターを置くことによって、また、違った面でグループ学習が活発化すると思われる。もちろん、そのためには、これまで、ほとんど経験のなかったファシリテーションについて、その仕事について、理解させ、ファシリテーターを育てないといけ

ない。この点をふまえ、次の実践研究では、役割分担がきちんとなされ、リーダーとファシリテーターの役割が明確化されているグループ学習と、そうでないグループ学習での学習の深まりや高まりに差があるかなどを検証していくとともに、授業のなかで、すべての学生が実際にファシリテーションを体得できる20分間のマイクログループ学習を設定し、基本技能を育てる予定である。本報告で示した調査結果や授業実践から、企業などで、その有効性が重視されているファシリテーションを、学習活動に取り入れることによって、これまで、グループ学習がいまひとつ深まらなかったところへの解決につながるものとさらに考えを深めた。

なお、本研究は、平成22年度 科学研究費補助金（基盤研究（C））「ファシリテーターの育成を通じた教育力向上プログラムの開発」（課題番号22531035）による。

参考文献

- 1) 教育課程審議会、学士課程教育の構築に向けて（中央教育審議会答申）、文部科学省、
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm#top、(2008)
- 2) 望月紫帆、西之園晴夫、宮田仁、質的分析法によるチーム学習と個人学習とを統合した学習の研究 IV、大会講演論文集、日本教育工学会全国大会第20回 P 1019-1021、(2004)
- 3) 望月紫帆、西之園春夫、宮西仁、チーム学習での満足度と学習成果の3チーム間の比較研究、大会講演論文集、日本教育工学会全国大会第21回 P405-406、(2005)
- 4) 鷺尾敦、グループディスカッションを重視した学習者参加型授業の効果、高田短期大学紀要第27号、(2009)
- 5) 梶川裕司、授業技術を考える～多人数授業の工夫～、京都FDセミナー（第1回）資料、(2010)
- 6) 大山牧子、田口真奈、アクティブラーニング形態の授業実践におけるグループ学習の特質、大学教育学会第32回大会要旨収録、P60-61、(2010)
- 7) 河合塾、アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのか、東信堂、P3-92、(2011)
- 8) 白井靖敏、下村勉、鷺尾敦、学習者参加型授業を促進する教員の学習支援スキル育成カリキュラムの開発、平成19-20年度科学研究費補助金（基盤研究（C））中間報告、P 1-127、(2008)
- 9) 白井靖敏、下村勉、鷺尾敦、山口厚子、学習者参加型授業を促進する教員の学習支援スキル育成カリキュラムの開発、平成19-20年度科学研究費補助金（基盤研究（C））最終報告、P 1-180、(2009)
- 10) 白井靖敏、学習者参加型授業を展開する学習支援スキル獲得に向けた体験型教員養成、名古屋女子大学紀要 第55号人文・社会編、P249-256、(2009)
- 11) 白井靖敏、鷺尾敦、下村勉、体験型教員研修の成果と課題、名古屋女子大学紀要 第56号人文・社会編、P53-66、(2010)
- 12) 下村勉、白井靖敏、鷺尾敦、他19名「総合的な学習の時間」の成果と課題についての検証と分析 三重県高等教育機関連絡協議会研究報告書 (2004)
- 13) 下村勉、白井靖敏、鷺尾敦、他9名、「総合的な学習の時間」の成果と課題についての実践的検証、三重大学創造開発研究センター研究報告第12号、pp.1-10、(2004)
- 14) 下村勉、白井靖敏、鷺尾敦、他17名「総合的な学習の時間」の実践検証と充実・発展への提案 三重県高等教育機関連絡協議会研究報告書 (2005)
- 15) 白井靖敏、濱口憲子、石谷幸久、下村勉、子どもの発達段階における「総合的な学習の時間」の学習形態や方法、日本教育工学会第21回全国大会論文集、p239-240、(2005)
- 16) 下村勉、小山史己、白井靖敏、鷺尾敦、須曾野仁志、落合英次、「総合的な学習の時間」の学習効果の分析 三重大学教育実践総合センター紀要25 (2005)
- 17) 下村勉、白井靖敏、鷺尾敦、須曾野仁志 他9名、総合的な学習の時間」の実践検証と今後の展開、三重大学創造開発研究センター研究報告No.13、P5～12、(2006)
- 18) 森時彦、ザ・ファシリテーター、ダイヤモンド社、(2004)
- 19) 森時彦、ザ・ファシリテーター2、ダイヤモンド社、(2007)

要約

学生の主体的・能動的な学びを引き出す授業のなかで、特に、グループ学習に注目し、その学習を深めるためのリーダーとファシリテーターの役割の重要性に着目した。ファシリテーターは、企業研修などにおいて、「問題解決」や組織力の強化の観点で注目を集めていることから、教育の場面においてもグループ学習の活性化や深化のために取り入れてはどうかと考え、その効果を検討した。結果、グループ学習での役割の重要性や仕事内容をきちんと説明したつもりであっても、実際のところ体験がなく、リーダーがファシリテーターの仕事も担い負担増となるなど、ファシリテーターの役割がほとんど発揮されていないケースが目立った。すでに経験しているグループ学習でも同様に、その効果のひとつである協調性やコミュニケーションの力は付いたものの、学習内容が深まらない、多様な学びへと発展しないことへの解決のひとつとして、ファシリテーター育成の重要性が認識できた。